

第 学年道徳学習指導案

日 時:平成 年 月 日()第 校時
場 所:
対 象:第 学年 組 名(生徒 名)
指導者:

1 主題名

(以下実態にあわせて使用する。)
多様な性ってなんだろう？
(指導内容2-(5)寛容・謙虚)
(指導内容4-(3)正義・公平公正)

2 資料名

- (1) アンケート「多様な性ってなんだろう？授業アンケート」(特定非営利活動法人ReBit,2017)
- (2) ワークシート1「性別はなんでしょう？」(特定非営利活動法人ReBit,2017)
- (3) 映像教材「多様な性ってなんだろう？」(特定非営利活動法人ReBit,2017)
- (4) ワークシート2「多様な性ってなんだろう？」(特定非営利活動法人ReBit,2017)
- (5) 配布資料「多様な性ってなんだろう？」(特定非営利活動法人ReBit,2017)

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値について

法務省の「主な人権課題」には、「性的指向」「性同一性障害」が明記されており、セクシュアルマイノリティは我が国の人権課題の一つと認識されている。したがって本単元では、人権教育の一環として多様な性をテーマとする。

平成24(2012)年、内閣府が「自殺総合対策大綱」でセクシュアルマイノリティの自殺リスクについて言及し、「無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つ」として「教職員の理解を促進する」と明言した。平成27(2015)年には文部科学省が「性同一性障害等に係るきめ細やかな対応の実施等について」と題する通知を発行し、学校での具体的な取り組みが要請された。

「ゲイ(同性愛男性)であることをなんとなく自覚した」年齢は平均13.1歳(※1)、「性別違和感を自覚し始めた時期」は小学校入学前までが56.6%、中学生までが89.7%との調査もあり(※2)、セクシュアルマイノリティが自分のセクシュアリティ(性のあり方)を自覚するのは、小学生から高校生までの学齢期が多いとされている。また、自殺念慮を抱いたことがある性同一性障害の人は58.6%で、特に自殺念慮を持つ年齢の第一のピークは思春期である中学生の頃とされている(※2)。また、周囲の無理解等から「いじめや暴力を受けた経験」があるセクシュアルマイノリティは68%にのぼり(※3)、前述の「教職員の理解」のみならず、身近な同級生らの理解も不可欠といえる。

このようにセクシュアルマイノリティのメンタルヘルスや、周囲の無理解を考慮すると、早期に多様な性に関する正しい知識や肯定的なメッセージを教育現場で発信していく必要があるといえる。いわゆる思春期にあたる時期に多様な性について学ぶことは、セクシュアルマイノリティの生徒にとって自己理解を深め、自己の性のあり方によって自己嫌悪したり自尊心が低下したりすることを防止すると考えられる。

また、多様な性について学ぶことで、一人一人が持つ個性に気づき、自己と他者の「ちがい」について認識し、互いを尊重する寛容の態度を育成することができると考えられる。さらに、セクシュアルマイノリティに対する社会の偏見や差別をなくすためにも、多様な性についての教育が果たす役割は大きいと考えられる。

互いが互いを尊重する姿勢について多様な性を切り口として学習することを通して、指導内容2-(5)、4-(3)の実現を図るため、このような単元設定とする。

(2) 生徒の実態について
(実態にあわせて記入する。)

(3) 資料について

教員5,979名を対象にセクシュアルマイノリティに関する意識調査を実施したところ、教育の現場で同性愛について教える必要があると答えた先生は62.8%、性同一性障害について教える必要があると答えた先生は73%にのぼるが、実際にLGBTについて授業に取り入れた経験がある先生は13.7%である。授業で取り上げない理由として、同性愛や性同一性障害についてよく知らない(26.1%)、教科書に書かれていない(19.1%)、教えたいと思うが教えるににくい(19.1%)などの回答が見られた(※4)。

本資料は、多様な性について1コマで学習することを想定して制作されており、映像教材によって多様な性に関する基礎知識およびセクシュアルマイノリティの人の声に触れることができる。また、付属のワークシートで考えを深め、自分の意見を持つこともできる。なお、付属の「指導の手引」を活用することにより、本時を導入とした複数時間の授業や教科横断的な展開も想定できる。

(※1) 日高庸晴ほか(2007):厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業 ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2

(※2) 中塚幹也(2010)「学校保健における性同一性障害:学校と医療の連携」『日本医事新報』4521:60-64

(※3)いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン 平成 25 年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業「LGBTの学校生活に関する実態調査(2013)」

(※4) 日高庸晴(2015):子どもの“人生を変える”先生の言葉があります。厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 <http://health-issue.jp/f/>

4 指導区分

(実態にあわせて記入する。)

5 本時のねらい

(以下実態にあわせて使用する。)

－多様な性について学ぶことを通して、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、それぞれの個性や立場を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

－多様な性について学ぶことを通して、差別や偏見のない社会を実現しようとする道徳的心情を育てる。

6 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
事前 アンケート 5分	資料(1)を配布する		資料(1)左側の<授業前アンケート>を記入する。記入後、回収せずに生徒が手元で保管する。以降、授業前アンケートの書き直しをしないよう声かけをする。
導入 5分	資料(2)を配布する	◎このイラストの性別はなんだと思いますか？ ・「サッカーしているから男」「リボンをつけているから女」など、男性らしさ女性らしさを起点とした発言 ◎男・女といったけれど、性別は本当に2つだけなのでしょうか？今日は多様な性について学習します。	
展開(1) 15分	資料(3)を視聴する		・チャプターごとに一時停止してワークシートに取り組みせてもよい。 ・セクシュアルマイノリティに関する揶揄等があった場合の対応は、「指導の手引き」(1)を参照する。
展開(2) 10分	資料(4)を配布・記入する		・記入した内容の共有や発言を強要しない

終末 10分	資料(2)に戻る セクシュアルマイノリティのような見た目だけではわかりづらい「ちがいは身近にあたりまえに存在すること、それらを尊重することで誰もが生きやすい社会になることを伝える。 資料(5)を配布する	◎このイラストの性別はなんだと思いますか？ ・「わからない」「男・女だけじゃない」など、多様な性を踏まえた発言 ◎性別は多様であり、男女だけではありません。また、好きなものや外見から判断できるわけではないし、どの性別であっても「どうあらねばならない」ということはありません。 ◎多様な性と同様に、見た目だけではわかりづらい「ちがひ」もあるからこそ、想像力をはたらかせる必要があります。 ◎「ちがひ」を尊重するために必要なのは、まずその「ちがひ」を理解しようとするのではないのでしょうか。	・多様な性から多様性に広げる ・生徒一人ひとりが、個々の「ちがひ」をどう受け入れるか、今後とも考え続けるよう促す。
事後 アンケート 5分	資料(1)に戻る		資料(1)右側の<授業後アンケート>を記入する。記入内容が他の生徒に見えないように留意して回収する。

7 本時の評価

(以下実態にあわせて使用する。)

- 多様な性について学ぶことを通して、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、それぞれの個性や立場を尊重しようとする道徳的心情を育てることができたかを、発言、態度、ワークシートの内容などを総合して評価する。
- 多様な性について学ぶことを通して、差別や偏見のない社会を実現しようとする道徳的心情を育てることができたかを、発言、態度、ワークシートの内容などを総合して評価する。